

編集後記

都心のターミナルには再び雑踏が戻り、日本の各都市には旅行客が戻ってきています。相変わらず感染症対策に余念のない日々ですが、過去2年のCovidの生活から解放されつつあるのを実感する今日この頃です。大学病院の外来患者数も以前の8~9割まで戻り、手術件数も回復してきました。

久しぶりの会食で旧友や海外の友達に会うと、一様に心が弾み、とても嬉しくなります。長きにわたり強制的に疎外されていた者同士が会おうので感激もあるのでしょうか。私は、この2年間で自分の時間を見つめ直すことができました。そのような先生は多いのではないのでしょうか。週末の時間が捻出されるようになり、論文作成や趣味への時間の創出、あたらしいことへの挑戦など、これまでできなかった時間の使い方ができるようになりました。少しゆとりをもって生活できるならば、あくせく働く必要はないことを実感しています。

今月の特集は、神経眼科です。視神経炎関連の論文数やその検索数が急上昇していることを中澤先生が指摘していますが、この2年で神経眼科疾患が増えているのを私の外来でも実感します。たとえば、以前は

あまりみられなかった甲状腺眼症の患者がすごく増えています。眼球運動、瞳孔、画像検査など神経眼科の最新の基礎的事項を確認できる内容になっています。

綜説の執筆者は、柳先生、西口先生です。重要なことですので、是非、一読して押さえて欲しいと思います。今後の眼科診療の道筋が見えてきます。たとえば、外来でよく見かける加齢黄斑変性の正しい定義を覚えることで、患者さんにも最新情報を伝えることができます。nAMD, type 1 NMV などあたらしい言葉の定義、新旧の分類表にわかりやすく出ているので確認すると良いと思います。また、遺伝子治療もようやくと臨床実用可能の時がきています。アデノ随伴ウイルスベクターの技術の向上で、RPE65 遺伝子の補充が可能になりました。これは、とても画期的なことであり眼科が先がけてリードしている分野ですね。連載の白内障手術のウェットラボのトレーニング方法も研修医の先生の参考になりますし、Ngenuity®の手術ネタも臨床家には有益な情報です。

今月号もとても中身のある内容で、ご一読ください。皆さまにとり、良い夏の到来となりますように。

(門之園一明・記)

編集：後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃・福地健郎
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸・
坪田一男・富田剛司

「眼 科」 第64巻 第7号 7月号

2022年7月5日発行（毎月1回5日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間講読料金

定価 46,310 円（本体 42,100 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。